

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

吉田 光一 会長 年度テーマ

よりハイレベルに！

例会会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

クラブ会報広報委員長 成田 勝彦



2008-09 年度 RI 会長
李東建 (リー・ドンカン)

承認
会長 吉田 光一
幹事 西川 博

事務局 名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp

HP <http://rc.nagoya-seinan.org/>

第648回 例会 No. 16 平成 20年10月23日(木) 晴

■ ローターソング	「手に手つないで」
■ 出席報告	会員54名中36名出席
■ 出席率	70. 59% 出席計算人数 51名
■ 修正出席率	10月10日 95. 74%
■ スピーカー	加藤久明さん、三島基成さん
■ ビジター	名古屋RC 水野金平さん

会長挨拶 吉田光一

こんにちは。
今日も沢山の御出席
誠にありがとうございます。

アメリカ発の世界的
金融不況、一説には
① 人類史上最大の
不況 とか

② 銀行はお預かり
したお金は2～3%
しか残っていません。

ほとんどは融資と株やファンドに行っていて、大損をして
います。と云われています。

銀行預金は小泉首相の時決めた1千万円しか保証され
ません。1千万円以上の預金をどう安全にプールするか
は緊急の課題です。

「銀行の倒産で踏み倒されてはたまりません」

① 現金で降ろして来て自宅の金庫に入れたのでは、強
盗が来てお金だけでなく命迄狙われてしまいます。

② 銀行の貸金庫も1つの引出しにせいぜい2～3千万
円しか入りません。

いずれにしても対応は急を要します。

沢山の銀行に預けておられる皆さんは大変忙しいです
が、ぬかりの無い様行動しましょう。

外国の銀行に預けたお金もその国の銀行が倒産すると、
その国の国民に限り一定額の保証はするようですが、
外国人の分は全く保証されないのが通例です。何度も申
上げて恐縮ですが、どうかお互いに自分の資産を大切
に上手に保護しましょう。

さて、ここでほのかに暖かい話を少し聴いて下さい。

先日自宅の玄関を出た娘が、カバンをぶつけて女房が
一番大事にしていた牡丹の植木鉢を割ってしまいました。
とっさに女房が「ターチャン怪我はしなかった！」と優しく



娘に声を掛けてくれました。そこで娘は「お母さん。私今
大変勉強になったわ！私だったらものすごく怒っていた
わ。私もこれから子供に注意する時参考になりました。」
と云ってました。私は女房の寛大さに感謝し、やれやれ
我家も安泰だと気が休まりました。

毎年10月20日頃、満天星が真赤に染まって美しいので、
ゴルフ兼で出掛けますが、今年は女房にお礼の心を込
めて先週末2人で蓼科のエクシヴに一泊して紅葉を見に
出掛けました。

期待通り好天に恵まれて、深紅の満天星や紅葉に迎え
られて、心身のリフレッシュになりました。

新生名古屋丸の内ロータリーも、皆さんと共に優雅な心
と行動で一回りずつさらに大人のクラブにして行きましょ
う。

ニコBOX

●本日は「新入会員卓話」として、加藤久明さんと三島基
成さんに卓話をさせていただきます。宜しくお願い申し上げ
ます。吉田会長、西川幹事、渡邊直前会長、岩田、桑
原、安江、藤野、後藤 敏、池井戸、松尾、浮貝、土岐、加
藤満男、森田、柴田、林昌義、大林、中川(敬称略)

●本日新入会員卓話をさせていただきます。よろしくお願
いします。加藤久明さん、三島さん

●秋の健康感謝ニコニコDay

藤野さん以下5名

本日合計 50, 000円

新入会員卓話

「河川環境楽園について」 加藤久明



- 議題 1. クラブ名称変更記念式典収支報告
2. 地区委員会への出向者募集について
3. 同好会活動の活性化について
4. 委員会メンバー全員からの意見
5. その他 クラブHPについて
カンボジア継続事業について

「第5回クラブフォーラム＝ロータリー財団＝」
地区ロータリー財団副委員長 藤田守彦さん



フィリピンでの授業風景

「読み書きができるように（識字率向上）」
（ROTARY JAPAN WEB より抜粋）

日本では、読み書きができるということは当たり前のことのように思われています。しかし、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいるのです。読み書きができなければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではありません。例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのかわからないのです。ロータリーでは、全世界のすべての人たちが、読み書きができるよう、識字率が向上するように、さまざまな活動をしています。発展途上国のへき地の村に学校を建てたり、教科書や鉛筆、ノートなどを送ったりしています。文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字を理解できない人がたくさんいます。おかあさんが読み書きできるようになると、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くこともできるようになります。このような理由から、ロータリーでは、成人女性に対する教育も支援しています。

オーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がCLE (Concerned Language Encounter) という言語教育法を開発しました。ウォーカー博士はロータリアン(ロータリークラブの会員)です。CLEというのは、例えば、子どもたちなら画用紙からお面をつくったり、人形をつくったりという簡単な工作をしながら文字を教えています。成人の女性なら、料理や裁縫、手工芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、そういった作業をしながら文字を学んでいます。楽しいこと、実益に結びつくようなこととともに文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。また、費用も少なく、短い期間で学ぶことができます。したがって、多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。

文字が読めないという悪い仕事に就くことができず、生活は貧しくなります。貧しいが故に、その子どもたちは学校に通うことができず、文字を覚えることもできません。そして、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを強いられます。こうした貧困の連鎖を断ち切るためにも、ロータリアンたちは、世界中のいろいろな地域で、すべての人たちが読み書きができるよう、活動を続けています。